

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年12月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3972500577
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム ひのきの里
所在地	〒784-0043 高知県高岡郡津野町黒川字小畑740番地6
自己評価作成日	平成21年8月31日
評価結果市町村受理日	平成22年1月18日

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成21年9月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=3972500577&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の隣には幼稚園があり、園児達の姿や声が聞こえ入居者の生活を明るくしている。また、園児との交流も継続的に出来ている。入居者、職員共に地域の出身者がほとんどであり、地域の住民の方々とも、避難訓練や行事等において協力を得るなどして、地域に根差した運営に取り組んでいる。また、入職から3年以上の職員が6割を超えており、利用者との馴染みの関係を築き、共に生活をしている。今後とも、地域で唯一の地域密着型サービス事業所として、更に地域との連携を深めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は学校跡を利用しており、敷地内の体育館やグラウンドを利用する地域住民や子どもたちをはじめ、隣接する幼稚園園児と交流する環境も整っている。事業所内に貼られている写真や絵画などから、子どもたちとの交流が利用者の生活を明るくしている様子が窺われる。地域住民からは、無農薬の野菜や花を届けてもらったり、事業所の畑の世話をしてもらい、利用者は収穫や食材利用など楽しみにしている。また、事業所では、中学生の体験学習やボランティア等の受け入れ、地域のお祭り、陶芸教室への参加など、積極的に地域との交流に取り組むほか、消防団や消防署、地域住民の参加を得て、夜間想定避難訓練を行うなど、地域と一体となり利用者を支援していく関係を築いている。管理者は職員と話し合い、昼休みの休憩を交代で取るようにするなど、労働環境にも配慮した運営に取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名 えびね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして、暮らしを支える理念を掲げ、職員全員で理念を確認し、理念に添った暮らしが出来るように取り組んでいる。	職員全員で話し合い、地域と共に支え合って事業所独自の理念を作り上げており、職員会や日々のミーティングで振り返りながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園や小学校の行事に参加し交流を深めている。また、地域の方とも、野菜の差し入れや畑仕事の手伝い等で日常的に交流できている。	自治会の活動が少ないので加入していないが、町社協の特別会員として、地域活動への参加や行政が行う地域の座談会へ出席し、防犯・防災や独り暮らしの高齢者などについて話し合っている。地域の情報は、地区の広報や運営推進会議を通して得ている。また、地域のお祭りや学校行事への参加、地域の方が野菜や花を持参してくれたり畑作業を手伝ってくれるなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者として、地域のふくし座談会や認知症の家族の方の座談会等へ出席し、認知症への理解を深めてもらえるよう努めている。また、中学生の体験学習や各団体の施設見学の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告や意見交換、課題の解決等を図り、サービスの質の向上に努めている。	2カ月毎に開催し、事業所の状況や行事予定、制度改正や感染症などについて、意見交換をしている。また、前回評価を受けて評価結果や取り組みについて報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所が取り組んでいるサービスや、今後取り組もうとする事に対して相談し意見を頂いている。	利用者の入居や待機についての情報交換や運営に関して相談したり、ケア会議や体験学習の受け入れなどを通じて協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時に身体拘束に対する説明を行い、理解をして頂いている。また、居室には鍵がなく自由に入出りできるように支援している。	職員会で身体拘束について学習し、拘束をしないケアに取り組んでいる。外出傾向のある利用者は把握しており、状況により落ち着くまで一緒に歩くなど支援している。玄関は夜間のみ鍵をかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対して職員会で説明を行い、職員に理解してもらうように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経済的虐待等について話し合いを行い、成年後見人制度への理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関して、規約等について、書面や口頭で説明し、理解をして頂いたうえで契約を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や面会時に意見や要望を問い掛けている。出された意見に対しては、職員会等で話し合い、反映させている。</p>	<p>家族会は年4回開催され、事業所のお祭りやバザーなど行事への協力依頼や運営について話し合われている。意見箱も設置しているが、特に家族からの意見はない。</p>	<p>家族会開催時に家族だけで話し合う時間を設定するなど、意見等を気軽に伝えられる機会を工夫することが期待される。</p>
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会等で意見を聞くようにしている。また、個別でも意見を聞き、話し合いの機会を設けている。</p>	<p>毎月の職員会で意見を聞き、労基関係、勤務時間、休憩時間等について話し合わせ、運営に反映させている。また、利用者の入退居についても話し合っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>介護職として実績を積み資格取得が出来るように支援している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員のキャリアアップのために法人内の研修に参加できるよう勤務に配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他法人からの研修を受け入れたり、研修会へ参加することにより、資質向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込書には、生活歴を記入する欄を設けている。また、事前面接の時は、必ず生活歴の確認を行い、安心した関係作りに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込、面接時には、家族が困っている事に耳を傾け、家族の思いを理解するように努めている。また、事業所の運営方針についても説明し、事業所への理解をしていただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センター等を通じての相談が多く、必要とする支援を見極めたい入居になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かし、出来る事は自分で行って頂き、与えられるだけの生活にならないよう援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日頃の様子を細かく伝えていく。また、家族の思いに耳を傾け、共感する事を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問があり、事業所も地域の方等の訪問を歓迎している。	友人み知人の訪問がある。2カ月毎に近くの美容院の訪問があるほか、家族がなじみの理容店に連れて行っている。また、利用者の馴染みの店で買い物ができるように、希望に沿って支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで過ごされる方が多く、良好な関係が築かれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事の時は、声を掛け協力していただいている。また、近況を伺い、家族の思いに耳を傾けている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の聴き取り等により、できる限り本人の希望を把握するように努めている。	日ごろの生活場面から思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族や近隣の親しかった人などから聞くこともある。また、ケアマネジャーや入居前のサービス利用機関から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に聞いたり、面会時に家族や知人等に聞き取り把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を見極め、できる事は自分で行っていただくように援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に要望を聞き、職員間でカンファレンスを行い、介護計画を立てている。	毎月の職員会でカンファレンスを行い検討している。モニタリング3カ月毎に行い、短期計画は3カ月、長期計画は6カ月を基本として、状態に変化がある場合は、その都度に見直されている。家族の意見や要望は来訪時や電話などで聞いて計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づいたことや利用者の状況の変化を個人記録に記載し、情報等は連絡ノートを利用し共有をしながら日々のケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の意向を確認し、医療機関との連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公的機関やボランティアに対し、協力を呼びかけ、地域に根差した生活が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、以前からのかかりつけ医に受診が出来るよう支援している。また、状態悪化時は協力医の往診も受けられるようにしている。	事業所の協力医が2週間毎yとにに往診し、眼科など、以前からのかかりつけ医に受診する際は家族が付き添い、家族が付き添えない時は職員が同行している。受診結果は家族の「連絡や職員の報告をを送りノートに記入し、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師と日頃の健康管理や医療面での相談をし、助言や支援を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談室と状態等について話し合いを持ち、できる限り早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に重度化に対する指針を示し、事業所でできること等の説明を行い、同意を得ている。	看取り指針、看取り介護マニュアルが作成されている。家族の意向に沿って、訪問看護や医療機関とも連携し、看取りを行った例があるなど、体制が整えられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が2年に1回消防署による普通救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。また、地域の消防団の協力も得ている。	年2回事業所で防災訓練を行っており、うち1回は夜間に行い、地域の消防団、消防署、近隣の方々の参加、協力を得ている。防災機器の設備点検は業者が行っている。アルファ米、水、乾パン等の非常用食料等を用意しているが、3日間分の必要量としては十分ではない。	非常用食料等の備蓄量については、高知県社会福祉施設自身防災対策マニュアルをもとに検討することを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりが人として尊厳のある暮らしが出来るよう、気になる対応について話し合い、意識の向上に努めている。	利用者の尊厳を保ち、プライバシーを損ねないよう職員会等で意識づけ、日々のケアのなかで声かけ等に留意し、家族との面談時や事業所外では、利用者のプライバシーの保護を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が理解できる言葉で話しかけ、意志決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはあるが、個人の状況等に配慮しながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には化粧したりおしゃれを楽しんでもらうよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所の方に頂いた野菜や、事業所の畑で取れた四季の野菜を使用して調理したり、山菜や野菜の保存食を作ったりし、食生活を楽しんでいる。	野菜作りや下ごしらえ、調理、片付け等利用者の力量にあった食事作りへの参加ができています。利用者と一緒に食事をするの意義等は十分理解しているが、労基法による休憩時間の取得の関係もあり、労使が話し合い、職員は行事食以外と一緒に食事はせず介助に専念している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を立案し、献立に添って調理を行い、一人ひとりの摂取量を把握し、健康維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯みがきの声掛けを行い、個々に応じた援助を行っている。また、夜間は義歯を預かり保管している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、本人の排泄パターンの把握や排泄の有無について管理している。誘導等によりできる限りトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表で把握し、尿意のない利用者については時間をみて誘導している。利用者の排泄の自立状況により、パットや紙パンツを使い分けており、おむつはずしができた利用者も2名ほどいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と運動を心掛けている。緩下剤や下剤の服用はなるだけ控えているが、排便状況をみて使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制をとっており、拒否の強い時は無理強いしないようにしている。	利用者は併設のデイサービスセンターを利用してきた経過があり、ほとんどの利用者は、午後の時間帯に毎日入浴している。3日毎の入浴が習慣になっている利用者や、体調不良や汚染時には清拭やシャワー浴をするなど、個別に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限り活動に参加を促すなど、夜間に気持ちよく眠れるよう支援している。また、疲れた時は休息できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬の説明書をファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	陶芸教室で日常使用する食器を自分たちで作ったり、中庭で季節の花や野菜を育てるなど、日常生活を楽しむよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課として散歩を取り入れている。買い物希望される方には個別に対応している。行事の時は家族と一緒に外出する機会を設けている。また、外出届を出せば自由に外出できるよう支援している。	毎日、車椅子の利用者も一緒に事業所周围を散歩している。買い物には利用者の希望に沿って出かけている。花見などの行事には家族と一緒にバスで行ったり、家族に協力してもらい日帰りの外出にも柔軟に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事業所で保管しているが、外出時などは利用者本人が支払うよう見守り、支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に年賀状を書くようにしている。また、希望があれば、電話を掛ける支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂から見える花壇には季節の花を植え、季節を感じられるように工夫している。	食堂兼居間に続いて和室があり、足を伸ばしてくつろいだり、洗濯物を整理するなど、家庭的な空間となっている。また、和室の床の間や廊下の随所に季節の花が活けられ、落ち着いた風情を醸しだしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	廊下や中庭にベンチを置き、会話が出来る工夫をしている。また、和室にも座卓や座布団を置き、くつろげる空間を作っている。		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	馴染みの物の持ち込みを依頼している。	居室には、位牌や使い慣れた鏡台、ダンスなどが置かれ、家族の写真や児童が書いた絵など、利用者にとって過ごしやすい工夫をしている。また、利用者に応じて職員が段ボールを加工してダンスに仕立てるなど、工夫がみられる。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	廊下、浴槽、トイレにも手すりを付けている。廊下も車椅子が利用できる幅となっている。また、個人のわかる力を見極め、必要な目印を付けたり、物の配置に配慮している。		

V アウトカム項目		ユニット名： えびね	
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名 やまがら

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして、暮らしを支える理念を掲げ、職員全員で理念を確認し、理念に添った暮らしが出来るように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園や小学校の行事に参加し交流を深めている。また、地域の方とも、野菜の差し入れや畑仕事の手伝い等で日常的に交流できている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者として、地域のふくし座談会や認知症の家族の方の座談会等へ出席し、認知症への理解を深めてもらえるよう努めている。また、中学生の体験学習や各団体の施設見学の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告や意見交換、課題の解決等を図り、サービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所が取り組んでいるサービスや、今後取り組もうとする事に対して相談し意見を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>入居時に身体拘束に対する説明を行い、理解をして頂いている。また、居室には鍵がなく自由に出入りできるように支援している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に対して職員会で説明を行い、職員に理解してもらうように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>経済的虐待等について話し合いを行い、成年後見人制度への理解に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居に関して、規約等について、書面や口頭で説明し、理解をして頂いたうえで契約を行っている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や面会時に意見や要望を問い掛けている。出された意見に対しては、職員会等で話し合い、反映させている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会等で意見を聞くようにしている。また、個別でも意見を聞き、話し合いの機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職として実績を積み資格取得が出来るように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のキャリアアップのために法人内の研修に参加できるよう勤務に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人からの研修を受け入れたり、研修会へ参加することにより、資質向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込書には、生活歴を記入する欄を設けている。また、事前面接の時は、必ず生活歴の確認を行い、安心した関係作りに役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込、面接時には、家族が困っている事に耳を傾け、家族の思いを理解するように努めている。また、事業所の運営方針についても説明し、事業所への理解をしていただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センター等を通じての相談が多く、必要とする支援を見極めたうえでの入居になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かし、出来る事は自分で行って頂き、与えられるだけの生活にならないよう援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日頃の様子を細かく伝えていく。また、家族の思いに耳を傾け、共感する事を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問があり、事業所も地域の方等の訪問を歓迎している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで過ごされる方が多く、良好な関係が築かれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事の時は、声を掛け協力していた。また、近況を伺い、家族の思いに耳を傾けている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の聴き取り等により、できる限り本人の希望を把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に聞いたり、面会時に家族や知人等に聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を見極め、できる事は自分で行っていくように援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に要望を聞き、職員間でカンファレンスを行い、介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づいたことや利用者の状況の変化を個人記録に記載し、情報等は連絡ノートを利用し共有をしながら日々のケアにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族の意向を確認し、医療機関との連携を図っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>公的機関やボランティアに対し、協力を呼びかけ、地域に根差した生活ができるよう支援している。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医の他、以前からのかかりつけ医に受診ができるよう支援している。また、状態悪化時は協力医の往診も受けられるようにしている。</p>		
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションの看護師と日頃の健康管理や医療面での相談をし、助言や支援を頂いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療相談室と状態等について話し合いを持ち、できる限り早期に退院できるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族に重度化に対する指針を示し、事業所でできること等の説明を行い、同意を得ている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全ての職員が2年に1回消防署による普通救命講習を受講している。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。また、地域の消防団の協力も得ている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者一人ひとりが人として尊厳のある暮らしが出来るよう、気になる対応について話し合い、意識の向上に努めている。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人が理解できる言葉で話しかけ、意志決定が出来るように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはあるが、個人の状況等に配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には化粧したりおしゃれを楽しんでもらうよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	近所の方に頂いた野菜や、事業所の畑で取れた四季の野菜を使用して調理したり、山菜や野菜の保存食を作ったりし、食生活を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を立案し、献立に添って調理を行い、一人ひとりの摂取量を把握し、健康維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯みがきの声掛けを行い、個々に応じた援助を行っている。また、夜間は義歯を預かり保管している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、本人の排泄パターンの把握や排泄の有無について管理している。誘導等によりできる限りトイレでの排泄を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と運動を心掛けている。緩下剤や下剤の服用はなるべく控えているが、排便状況を見て使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	毎日入浴できる体制をとっており、拒否の強い時は無理強いしないようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限り活動に参加を促すなど、夜間に気持ちよく眠れるよう支援している。また、疲れた時は休息できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬の説明書をファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	陶芸教室で日常使用する食器を自分たちで作ったり、中庭で季節の花や野菜を育てるなど、日常生活を楽しむよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課として散歩を取り入れている。買い物を希望される方には個別に対応している。行事の時は家族と一緒に外出する機会を設けている。また、外出届を出せば自由に外出できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事業所で保管しているが、外出時などは利用者本人が支払うよう見守り、支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に年賀状を書くようにしている。また、希望があれば、電話を掛ける支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂から見える花壇には季節の花を植え、季節を感じられるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や中庭にベンチを置き、会話が出来る工夫をしている。また、和室にも座卓や座布団を置き、くつろげる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みを依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴槽、トイレにも手すりを付けている。廊下も車椅子が利用できる幅となっている。また、個人のわかる力を見極め、必要な目印を付けたり、物の配置に配慮している。		

V アウトカム項目		ユニット名： やまがら	
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない